

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 11 章 パート 3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

第二のわざわいは過ぎ去った。見よ。第三のわざわいがすぐに来る。(黙示録 11:14)

第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。(黙示録 11:15)

ここで出てくる 7 番目のラッパは、携挙のラッパではありません。

中にはここを見て、「ほら!! これが神のラッパだ!」「I コリント 15 章の“終わりのラッパ”だ!」

「I テサロニケ 4 章の携挙だ!」「だから、携挙は大患難の中間で起こる!」

「だから、教会は大患難の半分を経験する!」と言う人たちがいます。

でもこれは“神のラッパ”ではありません。

これを吹いているのは御使いです。

これは“終わりのラッパ”でもなく、“神のラッパ”でもない。

これは御使いが吹く 7 つのラッパの内の一つで、裁きと携挙とは一切関係がありません。

最後の御使いが吹き鳴らすラッパが携挙だ、なんて言う人々に惑わされないように。

そう言う人たちの勘違いの元はここ。

すると、天に大きな声々が起こって言った。

「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」

それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、地にひれ伏し、神を礼拝して、言った。

「万物の支配者、今いまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。」(黙示録 11:15-17)

7 番目のラッパが吹かれた時に彼らが言っているのは、

「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」

(黙示録 11:15)

なぜこんなことを話すかと言うと、天国に行った時に「うわっ！聞いた通りだ！」となるからです。

「この世の国」は文字通り単数形で、この世の君、この世の神、つまりサタンが支配する国ですが、それが確実に神とそのキリストの物になっているのです！

これが天国の言葉、話し方で「予測的発言」

あなたはどうですか。

予測的？それとも失読症的？

「ん～、それはどうかな…」「全てがあべこべで読めない」「私には理解できない」

「こんなの、めっちゃくちゃだよ～」「どうなってるんだろう。神様なんていないんじゃないか」

「祈りや賛美が何になるんだ…」

これは “イーヨー思考”

(*イーヨーは “くまのプーさん” に登場する陰気で悲観的、ネガティブなロバのキャラクター)
イーヨーは失読症的。

失読症の人は、全てが逆になって読むことができないのです。

片や、人生の患難の中でも、困難な時でも、痛みの中でも、

「主は御座に着いておられ、世を支配し治めておられる！主は素晴らしい！」

と確信を持って話す人がいます。

「ほら、患難の中でも神が全てを握っているんだよ！それは確かだ。」

「それは王国で、神が今働かれているんだ！」「神はご自身がおっしゃる通りの方なんだ！」

これが “ティガー思考”

(*ティガーは “くまのプーさん” に登場する明るく元気、自信に満ちたトラのキャラクター)
ティガーは予測的、天国的に話す。

イーヨーか ティガーか。

昨日のことですが、電話でジェリーと話していてとても祝福されました。

彼はホンジュラスにある私たちのミッションナリーで働いています。

彼らには未熟児で生まれた生後 31 日のメアリー・ニコルという女の子がいるのですが、数日前の夜、息をしなくなりました。

メアリー・ニコルの呼吸が止まり、青ざめてきたのです。

でも小さな町の小さな空港では飛行機も飛んでなくて、助けを得ることもできません。

メアリー・ニコルが生存できるかどうかは、非常に危うい状態でした。

その時の両親の、母親の気持ちは、皆さんにも分かるでしょう。

心から愛する我が子が血の気を失っていく。

何とか生きてと体をさすり続けますが、飛行機は来ないし、どうすることもできません。

その翌朝、ジェリーに電話をしたら、赤ちゃんが活着ているかどうかまだ分からないうちに彼が言うのです。

「すごいことが起きているんです。これまで神に関心がなかった家族の一人が祈ると約束してくれて、

今回の事で神を求めるようになりました。それから、昨夜の私たちの様子を見ていた地域の保健師さんは、再び神に立ち返りました。」

彼は見事に前向きでした。

「我が子も神に仕えると思っていたのに、どうしてこんなことに…」なんてことを全く言いません。

ジェリーと話していて、私自身が大変励まされ、祝福されました。

それから教会員で祈りました。

その結果は・・・グッドニュース！！

ハレルヤ！主をほめたたえます！！

主がして下さったことに対して、私たちがなすべき素晴らしいことはただ一つ、賛美し感謝を捧げること。

紅海が分かれて対岸に着いた時、ミリアムはタンバリンを叩いて主をほめたたえました。

それは良いことです。

紅海が分かれる前、この先どうなるのか分からず、エジプト人が後ろから迫っている時、イスラエル人はモーセを殺そうとしました。

「お前がここに連れて来たんだ！俺たちは死んでしまう！どうしてくれるんだ!!」

不平不満を口にしていたその時、奇跡的に紅海が分かれ、反対側に渡って

「主は素晴らしい!! やったー！」

それも良いでしょう。

でも、先にそれができたならどれほど良いでしょうか。

ジェリーは言ったのです。

紅海が分かれる前に、奇跡が起こる前に、祈りが聞かれる前に。

「主は良いお方。状況がどうであれ、主が働いておられる。御座に着いておられる！」

これが 11 章で見られる天国の様子で、こういう生き方が、あなたの心や家庭に天国をもたらすのです。

イーヨーを叩き出しましょう。失読症にならないで。

彼らのように、天国にいる者たちのように、患難の真っ只中で

「主は永遠に支配される！王国は主のもの！」「全てうまくいく！」「主に栄光！」

ところが、「諸国の民は怒りました。」(黙示録 11:18)

人々は怒り、地が揺れても何が起きているのか理解できません。

彼らはどうするかというと、悔い改めるのではなく怒るのです。

「諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」(黙示録 11:18)

主に仕える者は報われますが、文字通り、地球を崩壊する者や汚染する者は滅ぼされます。

それから、天にある、神の神殿が開かれた。神殿の中に、契約の箱が見えた。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。(黙示録 11:19)

「あの“契約の箱”が見つかるのか？」

私は違うと思います。

その日、あなたがたが国中にふえて多くなるとき、一主の御告げ―彼らはもう、主の契約の箱について何も言わず、心にも留めず、思い出しもせず、調べもせず、再び作ろうともしない。

(エレミヤ書 3:16)

だから私は、契約の箱は見つからないと思います。

全て地上のもの、祭壇や神殿は、天国にある実物の影だとヘブル書に書いてあります。

よって、本物の契約の箱は天国にあるのです。

また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。(黙示録 11:19)

二人の証人は、私たちが生きているこの時代に於いて、どのように伝道すべきかの良い手本です。

あなたが信仰を伝える時は、この事を覚えていて下さい。

人々はあなたをバカにしたり、背中を向けたり、逃げ去ったりするでしょう。

パウロはこう書いています。

確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。

(Ⅱテモテ 3:12)

あなたが敬虔に生きようとすると、時に迫害を受けます。そうなっているのです。

この二人の証人、エリヤと恐らくモーセは、大患難時代の人々から非常に疎まれて、彼らが死んだ時には、人々は喜び、祝宴を開きました。

しかし注目して欲しいのは、二人は堂々と話し、真実を伝えたという事です。

それが過去のものとなった時、人々は彼らを永遠に偉人として見るのです。

なぜなら、二人は人々を心から心配したから。

二人を引き止めるものは何もありませんでした。

この章は、ヨハネがこの手紙を宛てている1世紀の時代の人々から、私たちが生きている現代まで、聖書預言の理解を深めるためだけでなく、どう伝道すべきかを描いています。

人々に話すと、精神的にも言葉でも確かに打ちのめされるでしょう。

神やキリストを伝えることで、除け者にされ、はじかれ、パーティーに呼んでもらえなかつたりするでしょう。

でもその後、どうなるか知っていますか。

三日半後に、あなたはまた自分の足で立ち上がる。

足が躍り、喜びに満ち溢れ、そして天に上がる。

二人が天に上げられたように、あなたも精神的に大空を舞うのです。

信仰を伝える以上に素晴らしいことは何もありません。

たとえ打ちのめされ、叩かれ、除け者にされても、二人の証人が蘇ったように、私たちも復活します。

もしあなたの信仰生活がよどんでいるとしたら、クリスチャンであることや主との交わりにワクワクしないなら、解決策は伝道です。

足取りが軽くなり、天にも昇る気持ちになります。

伝道し分かち合うなら、本当に祝福されるでしょう。

人を愛し、伝えることで、あなた自身が大きな力を得ていることに気付くでしょう。

これが唯一、最も大切なことです。

私自身、信仰が回復し、再生されてきたから分かるのです。

その中でイエスが私に言った興味深い事は、

「あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらいからです。」(ルカ 6:38)

もし今夜、あなたも回復したいなら、熱くなりたいなら、聖書預言をどれだけ知っているとか、新しい神殿の場所についての理解とかは問題ではありません。

重要なのは、職場や近所の人、まだ救われていない家族に伝えることです。

それはあなたを回復させます。

保証します。絶対に保証します。

伝道しなければ私は行き詰まり、霊的な便秘になってしまいます。

お腹が痛くなり、イーヨーのようになってしまいます。

でも伝道すると、11章で見たような奇跡的なことが起こり始めるのです。

あなたにも同じことが言えます。

主は、「出て行って福音を宣べ伝え、そして惨めな思いをしなさい。」とは言っていません。

主は、伝道することによって私たち自身の心が回復し、素晴らしいことが起こる事を知っておられます。

たとえ難しい時でも、危険が伴うことがあっても、伝道すると素晴らしいことが起こるのです。

私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。(ヘブル 10:39)